

【用務の経過】

●視 察

- 1 視察日時 平成28年1月27日(水) 14:00～
- 2 視察先 静岡県伊東市
- 3 視察内容 伊東市認知症あんしんマップと認知症ケアパスについて

伊東市は静岡県東部に位置し、人口約68,000人のまちである。相模灘に面した伊豆半島の東岸中部で、火山群の溶岩流によって形成された特異な地形から、市域の45%が国立公園内にあり、年間約650万人の観光客が訪れる観光を基幹産業とした都市である。

しかしながら、伊東市の総人口は平成18年度の約75,000人から11年連続で減り続けるとともに、一方、65歳以上の高齢化比率は、平成18年度27.5%であったものが、現在では県内平均を大きく上回る39.2%とかなり増加傾向にある。また、市の推計では、平成30年には高齢化比率が40%を超え、2.5人に1人が高齢者になると予想されるなど、財政への深刻な影響が懸念されている。

このように高齢化が進む伊東市において、「もしかして認知症かも?」「家族が認知症と診断され不安」といった認知症に関する問い合わせや相談件数が高齢化に比例して年々増加していたことから、認知症に関する早急な対策が必要と判断し、知識と支援を充実させるべく、様々な場面で役立つ各種情報をまとめた「認知症あんしんマップ」を作成している。

その認知症あんしんマップは、大きさはA4判で、初期症状のチェック項目(質問10項目)、認知症の定義と症状、診断シート、そして相談機関(地域包括センター、地域密着型介護事業所)、認知症の診断・治療・投薬を行っている医療機関の一覧、認知症の予防と悪化防止のための支援施設や相談窓口なども紹介しており、総合的で非常に利用しやすくわかりやすい内容に仕上がっている。

事業費は50万円で、平成25年度の厚生労働省介護保険事業費補助金のうち、認知症ケアパス等作成・普及事業から全額補助を受けている。

呉市においても、高齢化が進み3人に1人が高齢者という状況の中で、認知症は誰もがなり得る病気であり、本人はもとより家族にとっても非常に大きな負荷がかかることから、家族の方に正しい知識を身に付けてもらうことで不安を取り除き、疑わしい症状の段階から支援や治療が行えるよう、医療、団体、行政など関係機関が連携するなど、きめ細やかな施策が講じられる環境・体制づくりをしていく必要性を感じた。

●陳情・要望活動

1 要望日時 平成28年1月28日(木) 13:30～

2 要望先 地元選出国會議員

衆議院議員 寺 田 稔

衆議院議員 中 川 俊 直

衆議院議員 斉 藤 鉄 夫

参議院議員 柳 田 稔

参議院議員 宮 沢 洋 一

参議院議員 溝 手 顕 正

参議院議員 森 本 真 治

総務省自治財政局, 財務省主計局

3 要望内容

広島県選出の参議院議員, 衆議院議員の国会事務所(議員会館)を訪問し, 本市の主要施策と特殊事情を説明するとともに, 特別交付税の配分について格段の配慮をしていただくよう要望を行った。